第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会　第４回議事録

日　時　　令和元年 10 月 28 日（月曜日）午後 6 時 30 分～
場　所　　武蔵野市役所 413 会議室
出席者　　玉野委員長、深田副委員長、佐藤委員、青木委員、寺島委員、小島委員（名簿順、敬称略）
欠席者　　なし
傍聴者　　１名

＜次第＞
１　開会あいさつ

２　議事
（１）　各種調査結果の報告
①　無作為抽出市民調査の報告
②　利用者アンケート（未実施分：中央コミセン）の報告
（２）　コミュニティ協議会との意見交換会の振り返り
①　各協議会との意見交換の結果共有
②　評価軸の検討
３　今後のスケジュール
４　閉会

＜配布資料＞
資料１　　無作為抽出市民意識調査報告書
資料２　　利用者アンケート（未実施分：中央コミセン）
資料３　　意見交換会の実施記録
資料４　　第四期武蔵野市コミュニティ評価における評価軸（案）

＜議事録＞

１　開会あいさつ

【委員長】　第４回コミュニティ評価委員会を始めたいと思います。まずは事務局より資料の確認をよろしくお願い致します。

【事務局】　お手元の次第をご覧ください。下の方に配布資料とあります。資料１として無作為抽出市民意識調査報告書、資料２としてＡ３の中央コミュニティセンターの利用者アンケート、資料３が意見交換会のまとめ（16 協議会分）で、こちらは事前に皆さまにお配りしていますが、今日お持ちでない方はお申し出ください。続いて資料４、評価項目評価の視点の考え方（案）で、こちらもＡ３の資料になります。当日の資料として、右側にカラー刷りの棒グラフが載っているもので、地域別の人口数と年代の構成比をまとめた資料です。地域ごとにどのくらいの人口があるのか、どういった世代構成になっているのか、今後の議論の参考にしていただければと思います。最後に前回のコミュニティ評価委員会の報告書を添付しています。以上でございます。

２　議題

（１）　各種調査結果の報告

①　無作為抽出市民意識調査の報告

【事務局】　資料１地域コミュニティについての市民アンケート調査報告書をご覧ください。表紙の下にある企業名の部分ですが、最終的には武蔵野市が発行しますので、後で訂正させていただきます。

こちらの市民調査ですが、無作為に抽出した 18 歳以上の 2500 名の市民に送らせていただいており、717 票が回収され、28.7%の回収率となっています。一部ご紹介させていただきます。

８ページをご覧ください。地域とのかかわりについての質問です。近所づきあいをどの程度されているかという設問で､｢会えばあいさつをする｣の回答が 55.0%ともっとも高く、続いて「会えば立ち話をする」が 18.3%となっています。20 代、30 代を見ますと、「顔も知らない」が全体と比較して高い傾向にあります。

続いて 11 ページをご覧ください。「地域とのかかわりについての今後の意向」についての回答です。「どちらともいえない」が 40.7%ともっとも高くなっています。続いて「どちらかといえば関わりたい」が 39.9%、「深く関わりたい」が 9.6%となっています。半分近くの方がなんらかのかたちで地域と関わっていきたいとの回答をしています。また、「関わりたい」「深く関わりたい」と回答している割合は、70 代以上に加えて、30 代の方の割合が過半数を超えています。

14 ページをご覧ください。地域コミュニティ活動への参加状況を聞いています。「特に地域コミュニティ活動には参加していない」の割合が 64.7%で、「参加している」の割合の 33.2%の約２倍となっています。

続いて 16 ページをご覧ください。現在参加している「地域コミュニティ活動の団体」を聞いています。「趣味・娯楽、自己啓発のサークル・グループ」に参加しているという回答がもっとも高く 21.8%となっています。続いて「父母会・ＰＴＡ」18.9%、「マンション管理組合」18.1%となっています。

17 ページをご覧ください。地域コミュニティ活動に参加した「きっかけ」について聞いています。「参加を依頼された」が 31.9%ともっとも高く、次に「活動内容に関心があった」29.8%、「地域との関わり・つながりがほしかった」16.0%となっています。

20 ページをご覧ください。現在、地域コミュニティ活動に参加していない層へ地域コミュニティ活動への関心について聞いています。「どちらでもない」の割合が 30.0%ともっとも高くなっています。続いて「どちらかといえば関心がある」が 29.1%となっています。年齢別にみると、「関心がある」と回答する割合は、30 代と 40 代でその割合が 4 割を超えています。

21 ページをご覧ください。現在、地域コミュニティ活動に参加していない層が地域コミュニティ活動に関心がある理由を聞いています。もっとも割合の高かったのが「地域とのかかわり・つながりがほしい」の 51.2%となっています。続いて「同じ関心を持つ人とのつながりがほしい」が 41.9%、「活動内容に関心がある」が 34.3%となっています。

24 ページをご覧ください。ここからはコミュニティセンターについての設問になっています。①コミュニティセンターの認知度です。「最寄りのコミュニティセンターもわかる」と答えた割合が 58.2%ともっとも高く、６割近くの方が最寄りのコミュニティセンターの場所をご存じであるということになります。20 代では、「最寄りのコミュニティセンターはわからない」と回答する割合が 46.4%と低い一方で、30 代で 7 割、40 代で 6 割の方がご存じであるという結果が出ています。

27 ページをご覧ください。利用しているコミュニティセンターについての設問です。「コミュニティセンターを利用している」と回答する割合は 55.8%であり、過半数の方が利用したことがあると回答しています。また、地域と関わりに関する今後の意向別にみると、「深く関わりたい」「どちらかといえば関わりたい」と過去の設問で答えた方の 7 割がコミセンを利用していると回答しており、一方で 3 割の方が地域との関わり意向があるにも関わらず利用していないという結果も出ています。

30 ページをご覧ください。コミュニティセンターに求める機能・サービスについての設問です。もっとも多かった回答が「気軽に集える場所がある」の 43.8%で、次いで「同じ関心を持った人と幅広いつながりができる」が 36.7%、「地域のイベントなど、地域の情報が得ることができる」32.1%です。

32 ページをご覧ください。コミュニティセンターに求める空間や設備についての設問です。「予約なしに一人でも過ごせる場所がある」と回答する人の割合が 46.2%ともっとも高く、次いで「大勢の人が集まることができる場所がある」が 40.4%、「バリアフリー化してあり、どんな人でも利用できる場所がある」が 26.6%となっています。

無作為抽出市民調査については以上です。続いて、資料２の中央コミュニティセンター利用者アンケートをご覧ください。中央コミセンは、昨年 12 月から今年８月まで給排水工事のため閉館していた関係で利用者アンケートを取ることができず、8 月いっぱいを使って調査を行いました。回答者の属性をみますと、60～70 代の方が比較的多く利用し、回答していただいています。利用の目的として「会議」とあげた方がもっとも多い結果となっています。「どんな場所であれば、よりコミュニティづくりが活発になると思うか」という問に対しては、「もっと広いロビー」という回答をもっとも多くいただいています。裏面をご覧ください。グラフの真ん中の「今後の参加意向」については、「是非参加したい」「参加したい」と回答する割合が、全体の回答結果より高くなっています。これは中央コミュニティ協議会の事業に今後参加したいという回答であり、今後こういった方々をどうやって協議会に引き入れていくのかが論点になります。アンケートについては以上です。

アンケートについては一部をご紹介させていただきましたが、報告書のまとめについて皆さんにご確認いただくこともありますので、お時間のある時にご覧になっていただければと思います。

【委員長】　アンケート結果については、どうしてもということがあるようでしたら、ご発言いただければと思います。本日は議題の（２）にある意見交換会の振り返りを主体に行いたいと思います。少し間があいてしまいましたが、資料を見て思い出していただきながら、認識を共有した上で、評価委員会の報告に向けてどのようにとりまとめていくか、ご意見をいただければと思います。まずは、８月に行いました意見交換会について、全体をとおしての感想、意見をいただきたいと思います。

地域それぞれによって、若者の流入・高齢化など特性があります。各運営委員会が自分の地域の状況を把握した上で活動を考えていくことができるとよいです。地域の状況を知るためには行政・住民の助けも必要です。担い手不足のために、ニーズはあるのに継続できなくなった活動がいくつか見られた反面、工夫をしながら若い年代を引き付けている地域もあるので、それらの経験が上手く共有できるとよいと思います。評価委員会の中で、全体としての方向性をまとめて、各協議会に共有する必要があるのではないかと思います。

【副委員長】　各コミュニティセンターが結構演劇などに使われていることに関心を持ちました。果たしてそれが、地域の拠点としてのコミュニティづくりにどのくらい貢献した使われ方になっているのかなと疑問です。こういう使われ方は地域の拠点としてのコミュニティセンターとしてふさわしいのかなと、他の使われ方もあるのではないかなというようなことを全体的に感じました。

【委員】　地域におけるネットワーク機能について、利用団体視点の回答が多いのですが、コミセンとして地域の団体とどのように関わり・つながりを持っていくのかという部分が薄いと思いました。平成 26 年に提言された「地域フォーラム」を、各協議会がどう受け止めているのか。「目的別コミュニティ」を作るために、協議会が主体的に何をしてきたのか。地域団体からの各種申し出に対する協議会の対応があまり見られなかったように思います。

提言について各協議会が考えていること、行ってきたことが見受けられませんでした。
【委員長】　ネットワークに関しては、防災との取組も増えてきているなど、前よりも意識的に取り組まれている感じがしましたが。
【委員】　担い手不足に関して非常に心配をしていましたが、協議会のみなさんのお話を聞いておりますと、地域づくりを含めてしっかり工夫されています。やはり皆さん自分ごとであるので、皆様の意見は厳しめだったのではないかと思いました。各コミュニティ協議会が工夫をされている点を、他の協議会に伝えていくことが重要だと思います。「うちでも取り入れてみよう」などの動きが生まれるとよいと思います。
　運営側について、世代間の隔たりがある。今後は、紙媒体だけでなく SNS も活用した情報共有が必要です。
【委員】　ボランティアでやっている中で、ポジティブな評価をしていったほうがよいと思います。コミセンは武蔵野市の宝なので長く続けてほしいです。また、運営委員のスキルアップもしてほしいです。さらに、地域の団体とのつながりを濃くすると、関係者の数や活動内容も豊富になると思います。
　評価の仕方については、同じテーマで評価していくのが分かりやすいと思うので、これからも、皆さんがやる気になるような評価をできればと思います。
【委員長】　地域の担い手が減っている中でも、例えば担い手が高齢化したことで、地域の学生や地域団体に協力してもらっている例があり、困難を逆手にとっていろいろ工夫しているのはよいと思います。
【委員】　担い手不足について、コミセンが 43 年前にできてからこれまで続く中で、理念は変わらないが、コミセンに求められるもの、あり方は変わってきていると思います。コミセンをコミセン以外の様々な施設の中でどのように位置付けてあげるのか、もう一度検討したほうがよいと思いました。
　存続のために担い手を探すという今までの方法はだんだん厳しくなってきている気がしており、コミセンを利用する人を増やすことが重要だと思います。利用者の中から運営者が出てくるのが理想的ではありますが、アンケートでも興味を持っている人はある一定数いることが分かりますので、そういった人をソフト面やハード面でどのように参加しやすい環境をつくるのか、そういったことを検討する必要があると思います。
　本来の使用目的とは違う利用の仕方が見られるというお話がありましたが、ＳＮＳなど、これまでとは違った情報共有の仕方などもありますから、そうした状況を踏まえながら、新しいコミセンのあり方を受け入れることも大事なのではないかと思います。
　各コミセンが個性豊かですので、共通の評価軸や到達目標が必要なのではないかという気がします。個別の評価軸や到達目標があるのかもしれない。
【委員長】コミセンがあるのが宝という話がありましたが、アンケートを見ていると、他の自治体に比べて地域活動が多い気がします。可能であれば、他の類似の施設と比べてもらうとよいのではないでしょうか。先ほど、何らかの活動が 33%という話があったかと思

いますが、この数字も高いと感じます。普通は 20%前後かと思います。昔行なった調査の比率でいうと、市民活動は 10%を超えると高いとなり、30%を超えるということはめったにありませんでした。武蔵野市は全体的に高いと感じますので、それはコミュニティがあることが影響しているということを指摘してあげるとよいと思いました。

過年度調査よりも認知度が高くなっているので、市民アンケート調査のなかにコミセンの活動の努力が見て取れます。そのあたりをもう少し言及していけるとよいのではないかと思いました。

【副委員長】意見交換会のまとめは、１から５の大きな柱に沿って、そこで出てきた発言を上手くまとめていると思います。次の段階に向けてよくまとめられていると感じました。

【委員長】まとめ方の案について事務局で検討しているようですので、ご説明いただけますか。

② 評価軸の検討

【事務局】　資料４をご覧ください。

第三期評価委員会報告書を配らせていただきます。５ページをご覧ください。16 の協議会との意見交換が終わり、どのように報告書にまとめていくかが非常に重要になってきます。その上で、論点として主に４つあると考えています。１つ目は評価の単位です。吉東コミュニティ協議会の例ですが、大項目として５項目を設け、項目ごとに行っていることを羅列した書き方で、この項目数を評価の範囲としています。２つ目が評価の項目です。どういった項目を評価していくのかが重要になります。３つ目は過年度調査のように、項目ごとにやれていることの羅列だけでよいのかどうか、最後に評価の方針として、工夫されていることのみでなく、課題等も報告書にまとめるのかどうか、ということが考えられます。そういったことを基に事務局としての案をご用意しました。左側が過年度の評価委員会のもので、大項目が３つとなります。右側が今年度の評価委員会での報告書案です。前期の報告書をベースにしています。地域とのつながりに重点をおいていますので、前回のものに、赤字の「地域におけるネットワーク機能」と「持続可能な協議会の運営」が追加となっています。大項目に対して中項目を設定しています。１．「運営の工夫・利用者」（住民の満足度）の向上に対して５つの中項目、２．地域におけるネットワーク機能に対して、「利用者・利用団体とのコミセンとのつながり」「地域とコミセンとのつながりづくり」の２つの中項目、３．持続可能な協議会の運営に対して、「運営委員会・協力員の人材充実」「持続的な事業実施」の２つの中項目の追加をしています。一部、前回の評価委員会であった項目をまとめたところもありますが、それは緑の四角で囲ったところです。そして大項目、中項目を設定して、どのように報告書をまとめていくかというのが、裏面になります。右側に番号が振ってありますが、ここに自己点検評価表や意見交換会まとめを落とし込んでいくというイメージです。１については、中項目に対して実施できていること、２，３に工夫されているところ、他の協議会に見てもらいたいことを書いていこうと考えています。具体的には、大項目の２に「地域におけるネットワーク機能」、中項目に「利用

者・利用団体とのコミセンとのつながり」について、１「多様な利用者・利用者団体がコミセンを利用している」、２「利用者・利用団体のつながりづくりのための取組を行っている」、さらに右側に移って、３「利用者・利用団体のつながりにより、新たな事業や活動が生まれている」と具体的な成果も書いていけるとよいと考えています。本日、皆さんにご議論いただきたいのは、評価すべき項目、項目数、どこまで報告書に載せるかなどです。最後のページは、吉東コミュニティ協議会を例にしたもので、まだ途中ですが、最終的にはこのような表を全協議会分作り、第六回の委員会で確認していただければと思っています。その後、各協議会にまとめたものを見ていただき、ご意見をいただいて、報告書にまとめていきたいと思っています。事務局案については以上です。

【委員長】事務局からの提案としては、まずは大項目、中項目というかたちで、具体的な評価の軸を定められないかということかと思います。こちらについては後ほどご意見をいただきたいと思います。

次に中項目ができたところで、一番できているものから基本的なものまで、段階的に３段階くらいまで並べるようなかたちにします。そこに各委員会の意見交換会で確認のできたものを落とし込み、その時各協議会でやっているものがあれば付け加えていき、項目ごとの進行具合、工夫の具合が分かるかたちで評価をしてはどうかということです。これはルーブリック評価といって、できていることを可視化して評価するということです。この評価の方法についても、これでよいのかということも含めて議論していきたいと思っています。全体としてはそのような説明ですが、まずは、全体のあり方について疑問等ありますか。よろしければ、項目の検討から始めたいと思います。

さきほど４と５についての説明がありませんでしたので、事務局からお願いします。

【事務局】

資料４の２枚目をご覧ください。大項目の４と５についてですが、施設の管理・運営に関わる部分です。個人情報の保護ですとか、会則や利用の決まりに沿った公平な運営がされていますかということです。こちらは基本的にできていると思われるのですが、意見交換会ではこの項目について触れていませんので、事務局の方で各協会にヒアリング等で確認させていただき、できているものを載せたいと考えています。

【委員長】４と５については、段階的な工夫というよりは、やっているかどうかの評価になるかと思います。１、２、３については、工夫の段階をつけることができると思います。まずは、大項目と中項目についての評価の視点についてご意見を伺えますでしょうか。

【委員】大項目について、２．地域におけるネットワーク機能、３．持続可能な協議会の運営については、この２つはあったほうがよいと思います。大項目が多すぎるとわかりにくくなるので、このあたりが一番わかりやすいのではないかと思います。

【副委員長】地域におけるネットワーク機能および持続可能な協議会の運営を大項目に入れるのはよいと思います。

【委員】２番、３番については意見交換会の話が反映されていてよいと思います。

１番の運営の工夫・利用者（住民の満足度）の向上の中の情報提供について、コミセンだよりだけではなく、ＳＮＳの取組があると思います。情報の伝達方法は時代によって変わってきていますので、その視点ひとつを見ても、これからの担い手となる方による新しい展開に対する評価もしていけるとよいと思います。

【委員】評価のラインについてはこれでよいと思います。５番の訓練の実施について、支え合いステーションとしての機能を持たなければなりません。支え合いステーションは指定管理業務から一旦離れるということがありますが、組み立てとしてはこの時点でやっておかなければならないので、どうなるのか疑問に思っています。

【委員】項目を増やして、精度を上げるのは大事だと思いますが、項目を増やすほどそれに引っかからないものも出てくることがあります。非常に厳しい状況の中で、項目が増えることで受け取る側にとってのハードルが上がるのではないかが心配です。

【委員長】４番・５番は、指定管理者としての決められた仕事の状況なので、１～３番とは別建てにしてもよいかもしれません。特別に工夫をしているようなところがあれば、ちょっと入れるようなかたちでよいのではないでしょうか。

【委員】こんなこともあったか、そういうこともできるのか、というようなヒントになるようなことがあるとよいと思います。他の協議会の評価の項目を見ることで、大いに刺激を受けるのはよいと思います。固定観念がくずされることもあるかもしれないですし、新しい視点を入れられればよいと思います。

【委員長】すでにルーブリック評価をどうするかという話に入らざるを得ないようにも思うのですが、項目としてはこれでよいということでよろしいでしょうか。１・２・３と４・５は区別できるようにして、４と５については、基本的に特別の工夫について確認事項にするということでよろしいでしょうか。１・２・３については、中項目を作り、２ページにあるようなルーブリック評価基準にあてはめていくというかたちでよいのかを議論したいと思います。

【委員】評価項目は大学でも求められていて、非常に難しいと思います。評価しなければいけないので、達成目標があって、どこまでできているかとならざるを得ないのですが、どうしていくべきかが見えていないと思います。コミセンがどうあるべきかが揺らいでいます。コミセンがこうあるべきであるということが明確であるかのように見えてしまいます。この項目だけがコミセンがなっていくべき将来のものなのかどうか、そうではない部分があるのではないでしょうか。

【委員長】必ず漏れるものがあります。この中にはまらないものがあります。その内容も載せて、項目の評価とは別に、問題提起がなされているものもいかすことを考えるべきだと思います。誰もがよいと思うような方法で評価していますが、コミュニティがどうあるべきかについて別建ての話を記載できるとよいと思います。

【委員】課題についても、コミュニティによって違うと思います。大きなくくりの中では、今後１０年間、これからのコミュニティをどういうふうに位置づけるかという視点も必要

だと思います。
【副委員長】ルーブリック評価のお話を聞いていて、単純に考えてはいけないなと思いました。大学とは違い、協議会のメンバーはボランティアであることから、あまり目標が高くなると、ハードルが高くなってしまい、そこは少し違ってしまうように思います。一方で、今までのようなかたちだと代わり映えがしません。そのあたりをもう少しうまく整理する必要があります。協議会のメンバーが議論しなければいけない視点があるべきだと思います。
施設の利用方法の工夫について、２番目に「施設の使用方法の工夫や改装等によって施設の利便性向上に取り組んでいる」とあります。このへんは協議会ではどうしようもない部分ですので、市はどのあたりまでやってくれるのかという話になってしまいます。自分たちが努力することによって、変えていけるというような評価基準がよいと思います。
【委員】ルーブリック評価基準には少し疑問があります。具体的ではないように思いますし、もう少しこちらから工夫や提案ができるとよいと思います。
過去の評価委員会の評価で、けやきコミセンの評価として「地域の課題を見つけなさい」という提案がありました。課題は何だろうと話し合い、取り組むという意気込みがあったように思います。こちらからの提案によってやる気が起きるような評価になるとよいのではと思います。
【委員】評価には、評価基準が必要だと思っています。ルーブリック評価で、何をやっているかが可視化されることは確かなので、これもいかしつつ、時代に即した部分が何なのかをもう少し考えていくべきではないでしょうか。課題は、ネガティブにならないように、各協議会のつぶやきのようなかたちであってよいと考えていて、そうしたものは出してよいと思います。
【委員長】大項目があって、中項目があるところまでは合意できますが、評価基準を段階的に出すことには無理があるように思います。現状、工夫している点、特筆すべき成果の３段階くらいを基準に、協議会ごとに比較できるようまとめるのがよいのではないでしょうか。客観的に示すのではなく、ポジティブな度合を示すようなかたちがよいのではないかと思います。わざわざ名前を出すこともありませんが、これがルーブリック評価のかたちとも言えるのではないでしょうか。
これとは別に、今出ていた議論は市全体の政策との関係で、この評価委員会がこうしてほしいという意見を出すべきかどうか迷っています。また、意見交換会で出ている、ここにはまらない、これからのコミセンをどうするかという、運営委員会からの題材があったかと思いますが、それを課題として評価委員会で整理してもよいのではと思っています。
【委員】これからのコミュニティが、コミュニティ構想、新しいコミュニティなど、様々な言葉があり、それが何のかというところに今、立っているのだと思います。評価委員会で、こういった課題がある、こうしたらよいのではないかと議論していることが、この先求められるものになっていけばよいと思います。

【委員】市として、何を目指していくべきか、見ていかないといけないと思います。
【委員】時代ごとにコミュニティのあるべき姿も変わります。柱は変わらないが、運営の仕方や集まってくる人達は変わってきてよいと思っていて、その中で、今コミュニティに必要なものが出てくるとよいと思います。市の考え方というよりも、市民が出してきた課題が目標になるものであると考えます。
【委員】土俵がないと、目指すべきものが見えてこないという気がしました。
【委員】市もこれからのコミュニティがどうあるべきか明確な姿が見えているわけではないと思います。時代が変化していく中で、コミセンがどういう役割を果たすべきなのか難しいですが、変わらない評価基準に落とし込める部分はあると思います。これから変わっていく部分に関しても、全体がこういう目標があって、評価できるという感じで、求められているものをもう少し分けていくとよいと思います。
【委員長】ここにはまらない部分の整理は必要で、それについては事務局にお願いしたいと思いますが、そうした上で、これが課題である、とまで記載するかは分かりませんが、分からない部分については皆で考えていきましょう、という整理の仕方にしかならないのかなと思います。最終的なまとめ方のところで、評価委員会で相談して打ち出していけばよいと思います。

今までの話を整理しますと、大項目・中項目はこれでよいとして、４・５は別建てにするということです。１・２・３の評価の仕方も、現状・工夫している点・特筆すべき成果で整理します。それとは別建てで、はまらない意見をピックアップしていただき、今後のコミュニティのあり方を考察する部分を評価委員会として出す必要があるのではないかと思います。

手前みそになりますが、地域の現状を知るというのは大事です。意見交換会を聞いていても、地域の現状に応じて変わってきていることが分かります。かつ、地域が変わっているのに、運営委員会のメンバーは変わらないということもあります。現状の変化は統計的にまとめるのがよいと思います。ただ、それを協議会で行うのは厳しいものがあります。重要なのは変化なので、年代別の動きが見えるような整理を、市の支援として入れるとよいのではないでしょうか。今回の評価活動を通じてこういった工夫ができるのではないか、市としてこういった支援をすべきではないかを別項目で入れていただけると大変よいと思います。こちらについて何かご意見があれば伺いたいです。

ハード面の話については、報告書の中でどのような位置付けになりますか。
【事務局】現在の報告書のイメージでは、各協議会の評価を第１部に考えています。第 2 部では、次回議論していただく予定のこれからの地域コミュニティ検討委員会提言書で出てきた地域フォーラムと、それを運営する力をつけようと武蔵野市が実施している未来塾について載せようと考えています。第 3 部にハード面の記載をしていきたいと考えています。ハード面については、年明けに全コミセンをみていただくのと、その視察を経てから委員会で議論をしていただくことを予定しています。第 4 部には全体のまとめを書くこと

を予定しています。
【委員長】ハード面は市がどう対処するかということですので、評価や活動を踏まえて市がどうすべきかを書く中で、ハード面についても入れていただければよいと思っています。当然、何が必要かという事も関連してくると思います。ハード面の現状、今後の課題、市がどのように整備するのかを議論する際に、地域の現状についてもまとめて入れるとよいのではないかと思います。
　ネガティブ評価をどうするかについては、出来ている部分を変えて参考にするということと、市やハード面との関連で、どういった考えなければいけないことがあるのか、という整理の仕方でよろしいでしょうか。
　その他に何かご意見はございますか。
【委員】コミセンは大型館から小型館まであり、ハード面一つとっても、一律に考えてしまってよいのかと思います。たとえば、コミセンの利用者が突然倒れて救急車が必要になった時にどう対処するのかなど、４、５に関連してくると思いますが、市にも考えていただければと思います。
【委員長】全体を通してご意見はございますか。
【委員】先ほど委員長のお話のように、地域別の年齢構成や人口が町丁目まで出せると、地域特性が分かりやすいと思います。
　個人的な話になりますが、八幡町コミセンは、夜は明かりの中にふぁ～と建っているように見えます。また、けやきコミセンは、林の向うに建っているというように、施設の建ち方にも地域特性が表れていますので、地域別のデータを入れた資料を作っていただければと思います。
【委員長】武蔵野市としてそういったデータを市民に提供するような部門はないのでしょうか。市によっては、地域協働や地域活動の部門が独自のサービスを提供している場合があります。今回は、こういった情報提供を検討しているというところまででよいと思いますが、市全体として、住民サービスを考えていく必要はあるかもしれません。
【事務局】住民データについては、随時公開していますが、詳細なものまでは公開していません。詳細なデータは、長期計画を作る際に、その都度出しているのが現状です。情報のオープンデータ化の検討は進めています。検討段階がどこまでは把握できていませんが、近々、一定の項目については出していくと思います。
【委員長】進んでいるところは、推計も含めて、少子化の状況を知ってもらうために出しています。
　他に何かございますか。
【委員】ハード面について気になるところがあります。利用者が多いほど、管理する方向にあるという現状があります。そうなると、使いづらいとか、優しくないなどの声が出てきます。そのへんをどうするのか、触れてもよいのではないかと思っています。
【副委員長】市民アンケート調査はどのように評価の中で使うのでしょうか。

【事務局】たとえば、人材不足はすべてのコミセンの共通の課題であると考えています。その中で、武蔵野市ではどれだけの方が地域コミュニティに関わりたいと思っているのかを知ることは必要です。結果として、何かしら地域と関わりたいと過半数以上の方が回答し、そのうちの３割の方がコミセンを利用していないということが分かり、その方たちをどのように引き込むかということも、このアンケート調査から見えてくるのではないかと思っています。

【委員長】報告書の第何章に入れるのですか。

【事務局】最後のまとめに記載することを考えています。

【委員長】ハード面と最後のまとめのところで活用していくということで、これからのコミュニティを皆で考えていかなければいけない課題の一つとしてとらえればよろしいでしょうか。

【委員】先ほどの小島委員の、地域にどんな風にコミセンが建っているのかというご発言について、その違いは結構大事だと思いますが、どうやってデータ化するのでしょうか。

【委員】難しいです。夜のコミセンを美しいなと思うのですが、多くの人もそれを見て、武蔵野っていいなって思うのだろうなと思います。駅前に建っているコミセンは、ビル群の中にありますが、乾いた感じのところに人が集まってくるのが素晴らしいなと思います。まちづくりやまちにもうるおいがあり、そこを評価するのは難しいですが、つぶやきみたいなかたちで書けるかもしれません。

【委員長】次年度にハードの確認を評価委員会で行う予定がありますので、全景で見た感じに注意して視察するようにして、今の意見もどこかで書ければと思います。

そろそろまとめてもよいかと思います。評価の枠組みとしては、大項目と中項目はこれでよいということで、１・２・３と４・５については別建てにして、１・２・３の中項目については、現状・工夫点・特筆すべき成果に落とし込んでいき、それとは別にはまらない意見をピックアップして検討し、そこに皆で考えていかなければならないヒントがあり、市としてのこれまでの位置付けを評価委員会で検討していくということでよろしいでしょうか。

今後の予定を事務局からお願いします。

【事務局】ご議論をありがとうございました。今日お示しさせていただいたルーブリック評価基準については、事務局としても悩んでいたところでもありました。コミュニティ協議会がもし方向性を迷っているような場合は、このようにお示しさせていただくことで、指針になるような活用のされ方ができるとよいと思いましたが、一方で、あるべき姿を出してしまうことになると難しいと感じていましたので、整理の仕方を示していただけてよかったです。ありがとうございました。引き続き報告書にまとめて、次々回にお示しさせていただきます。

施設の視察について、各コミセンの特徴的なところ、上手く工夫されているところなど、発見していただけるとありがたいです。窓が広く、ロビーを明るく上手く使っているとこ

ろ、体育室を文化祭で展示スペースとして活用しているところなど、いろいろあります。

３　今後のスケジュール

【事務局】今後のスケジュールについてご連絡させていただきます。次回の第５回は 12 月 18 日（水）18 時 30 分から、場所は今回と同じ武蔵野市役所 413 会議室です。内容は地域コミュニティ検討委員会提言にもとづく地域フォーラムと未来塾について振り返りを行いたいと思います。また、第６回を２月頃に予定しています。日程は改めて調整したいと思いますが、今日ご議論していただいた項目にそって協議会ごとにまとめたものをご提示させていただき、ご議論をお願いしたいと思います。２～３月に３日間ほどかけて、すべてのコミセンの視察をしていただき、その後、ハード面についてのご議論を２回、４月と５月に行いたいと思います。年が明けてからは、毎月１回、委員会を開催することになりますが、６月と７月の２回で全体の報告書のまとめを行い、８月に市長への答申という流れになります。

【委員長】来年になると少しハードになるということですね。全体をとおして何か疑問点などございますか。ないようでしたら、これで終わりとします。

４　閉会

以上